

新興国市場レポート

インド追加利下げ

インドが追加利下げ 今年4回目

インド準備銀行(中央銀行)は、9月29日の定例会合で政策金利(レポ金利)を現行の7.25%から0.50%引き下げ、2011年4月以来の水準となる6.75%としました。今年に入って4回目の利下げですが、過去3回の下げ幅が何れも0.25%であったのに対し、今回は0.50%と倍の下げ幅となっています。

消費者物価等インフレ指標が落ち着く中で、回復基調にある景気の足取りをより確かなものとし、またモディ首相の進める政策(いわゆるモディノミクス)を後押しするために大幅な利下げに踏みきったものと思われます。市場も今回の利下げを好意的に受け止めているようです。

新興国の一部には、利下げが自国通貨の大幅な下落を招き、輸入物価の上昇等を通じてインフレを悪化させ、それが更に通貨安を招くと言った悪循環に陥っている国もあるように思われます。今回の大胆とも思われる追加利下げは、他の新興国に比べたインドの経済基盤の強固さを示す一事象であるように思われます。

【市場の反応】

大方の予想(0.25%)を上回る0.50%の利下げとなったことが、市場にサプライズ(驚き)を与えたようです。

中国発の世界景気減速懸念等から日米をはじめとする主要国株式市場が下落する中、29日のインド株式市場(SENSEX指数)は反発しています。

利下げを受けて、10年国債金利は2013年7月以来約2年2ヵ月ぶりの水準まで低下(価格は上昇)しています。

為替(インドルピー)は予想を上回る利下げがあったものの、円や米ドルに対して落ちついた動きとなっています。

【今後の見通し】

①追加利下げについて

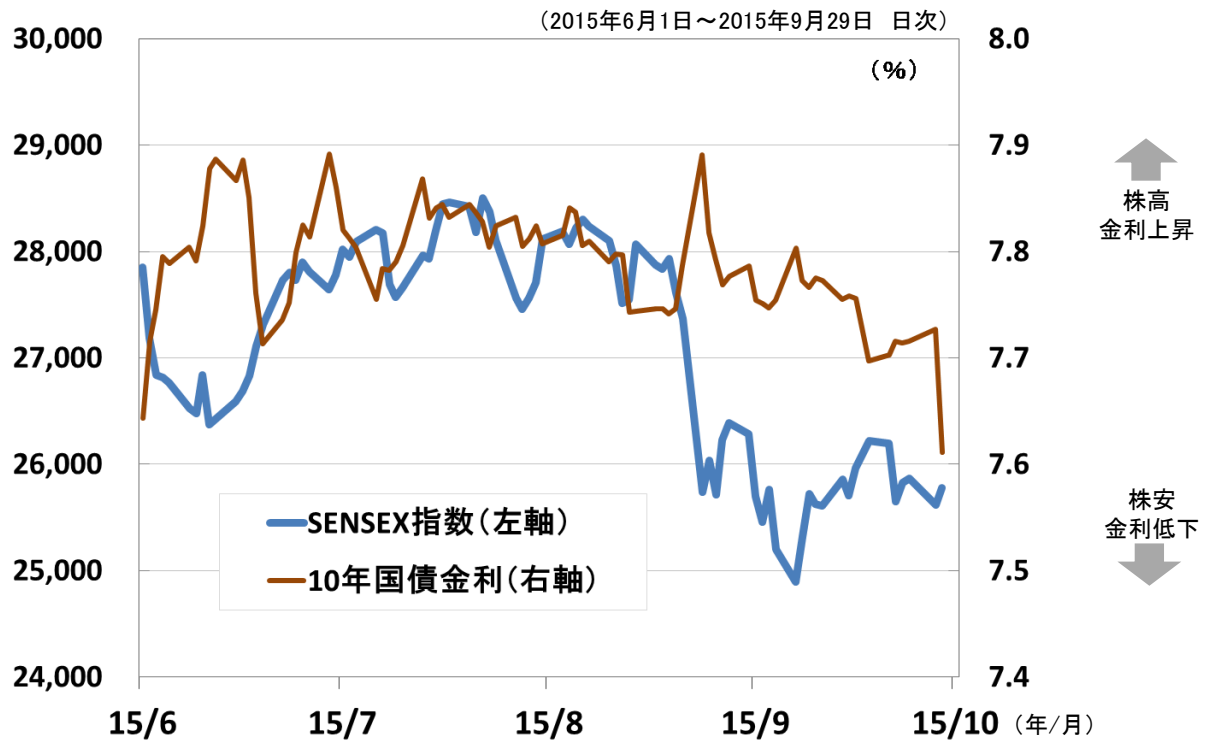
インド準備銀行は今回の大幅な利下げ効果の浸透度の見定めを行うものと思われ、当面の金融政策は現状維持になるものとみえています。今後の景気動向等にもよりますが、インドの利下げは最終局面に近づきつつあると考えられ、行われるとしてもあと1回程度になるものと判断しています。

②金融市場の見通し

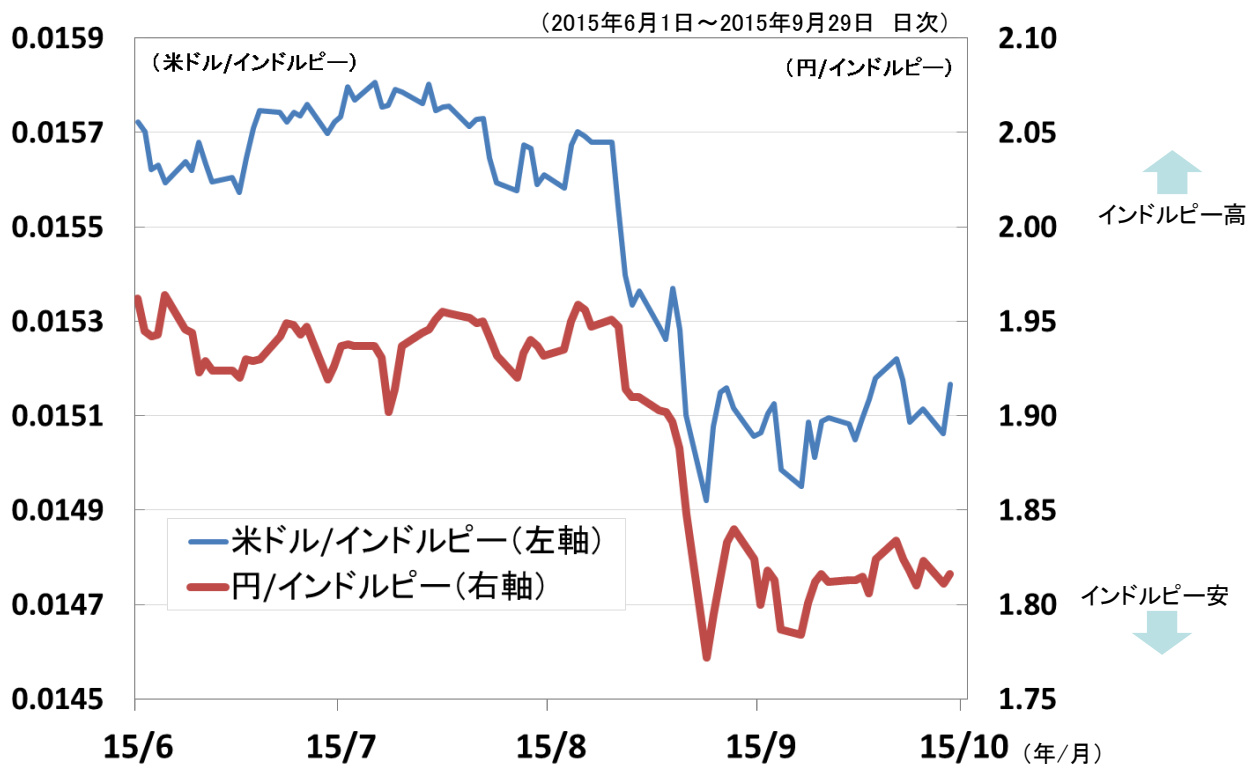
今回の利下げはインドの金融市場にとって大きな支援材料になるものと思われます。しかし、当面は、10月に重要な州議会選挙(ビハール州)を控えていること、米金融政策や世界景気の先行き不透明感からリスク回避の姿勢が再度高まりつつあり、株式市場等は現状水準で一進一退の動きになるものと考えます。

グラフ

図表1: インド株式とインド10年国債金利の推移



図表2: インドルピーの推移



出所: 図表1～2はブルームバーグデータを基にニッセイアセットマネジメントが作成

●当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。●当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮していませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。●当資料のいかなる内容も将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。